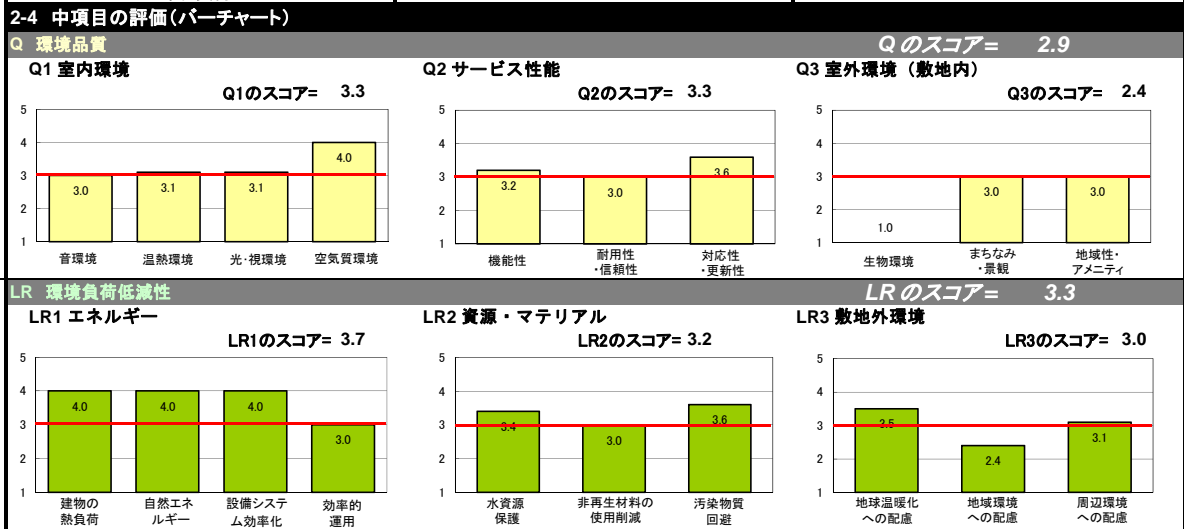
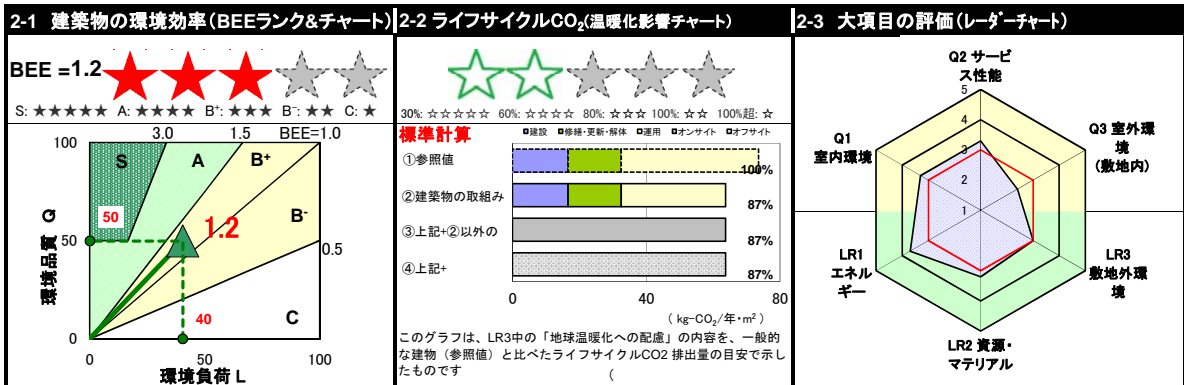


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知日野自動車岡崎営業所	階数	地上2F
建設地	愛知県安城市柿崎町猪ノ背51番地1	構造	S造
用途地域	指定なし、法22条地域	平均居住人員	59 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,450 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年7月11日
敷地面積	14,240.52 m ²	作成者	櫻木 博章
建築面積	2,272.70 m ²	確認日	2014年7月11日
延床面積	2,596.26 m ²	確認者	櫻木 博章



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.2 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.2 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境								3.3
1 音環境								3.0
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								3.1
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・遅延制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性				空調ゾーンごとの冷房・暖房の切り替えが可能				
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								3.1
3.1 昼光利用								
1 昼光率				梁を出さない形状で窓を天井まで設け明るい室内としています。				
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 織り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気環境								4.0
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				内装材全面F☆☆☆☆				
2 アスベスト対策								
3 タニコヒ等								
4 レンオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 結露対策								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								3.3
1 機能性								3.2
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				2.8mの天井高と天井までの窓で明るい研修室とします。				
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計				共用部などは耐久性の高い床、壁とし長期に渡ってやり替え不要清掃者が使用しやすい、設備とスペースを確保しています。				
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								3.0
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				多湿箇所の排気ダクトにステンレス鋼板製を使用				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性				3.2	0.19			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			4.0	0.20			
			異なる通信会社の引き込みを想定している					
3 対応性・更新性				3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			
1	階高のゆとり			5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.5	0.38			
1	空調配管の更新性			4.0	0.17			
2	給排水管の更新性			5.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		●	③	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制				4.0	0.10	-	-	4.0
			外皮の断熱を高め、開口部には複層ガラスを採用しています。					
2 自然エネルギー利用				4.0	0.26	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				4.0	0.50	-	-	
			トップライト 太陽光発電40kW					
3 設備システムの高効率化				4.0	0.38	-	-	4.0
			省エネの機器を採用しています。					
			集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.0				
			集合住宅の評価	3.9				
4 効率的運用				3.0	0.26	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1				3.0	0.67	-	-	
2				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●	②	4.0	0.20	-	-	
			タイルカーペット、ビニル床シート					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.32	-	-	
			F☆☆☆☆の建材を利用します					
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1				-	-	-	-	
2				3.0	0.50	-	-	
3				3.0	0.50	-	-	
			ハロン、フロンを使用しません					
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	3.5	0.33	-	-	3.5
			省エネの機器を採用しCO2削減に貢献します。					
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1		●		3.0	0.25	-	-	
2		●		3.0	0.25	-	-	
3		●		3.0	0.25	-	-	
4				2.0	0.25	-	-	
			車利用者が多いため、十分な駐車台数を確保します					
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1		●		3.0	0.33	-	-	
2		●		3.0	0.33	-	-	
3				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1				3.0	0.70	-	-	
2				3.0	-	-	-	
3				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1				4.0	0.70	-	-	
2				3.0	0.30	-	-	
			下向き配光の器具を適切な照度で配置している					

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 交通量の多い国道一号線側に車検棟と一体になったゲートを設け、視認性の向上と企業アピール効果を創出 受付事務所のある来客エリアにはガラス張りとし、明るく、入りやすい事務所イメージを演出。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 整備エリアはオーバースライダーによる全面開口により自然換気のできる計画としています。 整備エリアはトップライトを設け、積極的に昼光を利用しています。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 整備棟は敷地中央に配置し、ワンウェイの構内動線実現と同時に、周辺環境との離隔を確保。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物を敷地中央に配置し、周辺建物との離隔を確保する計画としています。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 太陽光発電パネル40Kwを設置しています。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 水廻りは節水器具を利用しています。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の屋根面をのぞく雨水については、雨水分離処理を行い、排水の水質に配慮しています。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。